

認定NPO法人シャプラニール=市民による海外協力の会

ANNUAL REPORT

2024年度
年次報告書

2024-2025



SHAPLANEER

取り残さない、
その小さな声を。



Overview

2024年度活動総括

情勢不安の中、
新たな視点を取り入れ、
着実に前に



ネパール:
児童労働削減事業 事業地の学校で学ぶ子どもたち



Bangladesh:
新しくできた支援センターに通う家事使用人として働く少女たち



Bangladesh:
東部大洪水の被災地で救援物資を配布



Bangladesh:
サイクロン防災の事業地にて住民女性たちの話を聞く内山事務所長(右端)

支援を届けた人の数
(緊急救援を含む)
約 **52,700** 名

2024年度は Bangladesh で起こった政変の影響を受けながらも、新たな視点を加えた活動を着実に進めました。 Bangladesh では、サイクロン常襲地域で災害時取り残されやすい女性・子どもたちに配慮した防災事業、ネパールでは学校への働きかけを強化した児童労働削減事業を開始。 Bangladesh で長年行う家事使用人として働く少女の支援では、首都ダッカへ働きに出される少女が多い農村地域で調査を行い、問題の根本原因を分析しました。

8月に Bangladesh 東部で発生した大洪水の緊急救援を行うとともに、日本国内で現地の状況を伝える緊急オンラインイベントや、支援を呼びかけるクラウドファンディングも実施。多くの方に活動地への関心を寄せていただき、支援の輪がさらに広がる1年になりました。

Bangladesh の政変について



2024年6月から始まった Bangladesh の公務員採用優遇枠をめぐる学生たちの抗議行動は、政府の弾圧を機に全国的な反政府運動へと発展し、混乱の中で多くの死傷者を出す深刻な事態となりました。ついには8月にシェイク・ハシナ氏が国外へ逃亡し首相を退任するに至り、その後暫定政権が樹立されました。外出禁止令が出され、一時はインターネットも遮断されるなど危機的な状況でしたが、シャプラニールでは駐在員らの安全を最優先に密な連絡を図りながら臨機応変に対応。現地での活動も、影響を受けつつ継続することができました。8月以降は、いち早く Bangladesh の状況を伝えるオンラインイベントを連続で開催しました。

Message

代表理事メッセージ

代表理事交代に関するお知らせ

当会の役員は代表理事も含め、任期を最長で6年までとしています。2025年度会員総会をもって、新代表理事に村山真弓が就任し、任期を満了した坂口和隆前代表理事が退任いたしました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



坂口 和隆

村山 真弓

前任 代表理事 坂口 和隆

2019年度から3期6年代表理事を務めた間は予測不可能で変動が激しい社会情勢が続き、シャプラニールとしてもフェアトレード事業の規模の縮小、感染症拡大による活動の制限、「ツナガリ」「チャレンジ」「インパクト」をキーワードとした中期ビジョンの策定、50周年記念事業、最後は Bangladesh の政変と目まぐるしい6年間でしたが、会員をはじめたくさんの市民の皆さまに支えていただきました。心より感謝申し上げます。

後任 代表理事 村山 真弓

シャプラニールとのかかわりは、就職したアジア経済研究所で、偶然 Bangladesh 担当になったことで始まりました。その時惹かれた、現地の人々に学び自己を見直すというシャプラニールの姿勢は今も変わっていません。他方、シャプラニールの活動地、 Bangladesh 、ネパール、日本の状況は大きく変化しています。共に生きていくために、シャプラニールが今、何をすべきか。皆さんと一緒に考え、未来を紡いでいければと願っています。

2024年度 活動一覧マップ



1 家事使用人として働く少女の支援

目的

他人の家で家事労働を行う「家事使用人」として働く子どもを社会から減らす



実施内容

- 1 少女たちに学びと居場所を提供する支援センターを運営。また、雇用主、保護者、地域住民が子どもの権利を守るよう働きかけるとともに、多くの少女たちの出身地である農村部で、送り出しを防ぐ活動を行なうための調査を実施した。
- 2 家事使用人の権利保護について、法制化とその実施をめざし、バングラデシュ政府や社会に向けた啓発を続ける。2024年3月にバングラデシュで活動する他のNGOと児童労働問題解決をめざすプラットフォームを設立し、共に協力しながら社会の意識変化を促すための働きかけを強化。

裨益者数(単年度): ①少女、保護者、雇用主等 約2,740人
事業期間: ① 2024年5月~2026年3月
② 2024年4月~2027年3月

3 東部大洪水緊急救援

2024年8月下旬大雨によってバングラデシュ東部で大洪水が発生。多くの家屋が倒壊し、農地が土砂におおわれたフェニ県の被災地にて、最貧困家庭など4,875世帯に緊急救援を実施、1世帯あたり20日分の食料配布のほか、蚊帳、調理道具といった生活物資を提供した。



4 サイクロン「レマル」緊急救援

2024年5月26日に襲来したサイクロン「レマル」の影響で、サイクロン防災支援の事業地でも多くの被害が発生し、家財や生計手段を失う被災者もいた。堤防の外に暮らし、もともと経済的に厳しい状況にあった300世帯へ食料支援を実施した。



2 サイクロンが多い地域での防災支援

目的

ジェンダーに配慮した防災を通じてサイクロン常襲地域の女性、女兒の困難を減らす



実施内容

ジェンダー視点を取り入れた防災力向上のために、各地域に設置された住民組織「災害管理委員会」の女性メンバーを増員し、発言のしやすさを改善。行政やコミュニティにジェンダーと防災についての研修を実施するとともに、道路や井戸のかさ上げや災害時浸水しないトイレ設置を進めた。

裨益者数(単年度): 地域住民、行政関係者等 約12,000人
事業期間: 2024年5月~2026年4月

バングラデシュ、ネパール、日本

フェアトレード活動「クラフトリンク」

目的

南アジアの文化を大切にしたい手しごとで現地と日本をつなぎ、生産者の生活向上をめざす



実施内容

新しいパートナー生産団体「Palli Crafts (ポリ・クラフト)」とともにバングラデシュの伝統刺しゅう「ノクシカタ」の商品開発を開始。また、オリジナル石けん「Sheソープ」の再販に向けてやりとりを進めた。国内では、委託販売、ギフトセットの大口注文や、企業とのオリジナルジュートバッグ制作などを通じ、新たな層の方々へ活動を知るきっかけを創出した。

1 児童労働の予防と削減

目的

児童労働の送り出し・受け入れの多い地域で地方行政、コミュニティ、学校の機能を強化して児童労働を減らす



実施内容

中退を防ぎ、子どもたちが児童労働に陥るリスクを減らすために、学校教育環境改善に着手。市・村・区の児童権利委員会の定期会議や活動実施の支援を行い、児童労働を防止する活動が活発に行われるよう促した。また、地域で社会活動を行う子どもクラブと協力し、地域住民の意識啓発にも取り組んだ。

裨益者数(単年度): 子ども、保護者、学校関係者等 約8,000人
事業期間: 2024年3月~2027年3月

ネパールでのその他の活動

チャイルド・ヘルプ・ライン運営支援

7つの郡でパートナー団体「CWIN」が運営する児童労働や虐待等の被害を受けた子どもたちのための電話相談サービスの運営を支援。2024年度は31,169件の入電があった。近年はオンライン上の性被害を含むトラブルや薬物問題の相談が増加している。

2 水害リスクに強いコミュニティづくり

目的

河川流域でコミュニティ・行政の防災力を高め、洪水リスクを軽減するとともに、水資源を活用してコミュニティの生計を向上させる



実施内容

区の緊急オペレーションセンターの設置、コミュニティ災害管理委員会の会議開催などを支援するとともに、土堤などの洪水対策インフラや農地に水を流すパイプなどの整備を進めた。河川流域の2つの学校では防災訓練を実施、周辺地域でハザードマップも設置した。

裨益者数(単年度): 地域住民、行政関係者など約4,000人
事業期間: 2024年5月~2026年4月



1 多文化共生社会づくり

目的

外国ルーツの人々を取り残さないよう地域コミュニティの意識・行動を変える



実施内容

外国ルーツの人と地域住民がつながるイベント実施や情報提供を行う多文化共生コミュニティスペース「マザリナ」を計23回開催。親子世帯との接点を増やすため、「一般社団法人青草の原」が西新宿で運営するコミュニティスペース「れもんハウス」と協働で親子向けの居場所「マザリナれもん」の運営も開始した。また、運営ボランティアの能力強化をめざした研修や地域のさまざまな団体との連携強化のための多文化共生に関する会議も開催した。

コミュニティスペース参加者数(単年度): 116人

1 東京都新宿区

BANGLADESH

バングラデシュの活動の

注目トピック



◀ 多くの少女たちが働きに出されている
地方部マイメンシン県の村での
調査の様子



▲ 新しい支援センターには少女たちの楽しそうな声が響く



PICK UP 1 家事使用人として働く少女の支援 首都 ダッカ

少女たちはどこからくるのか、問題の根本に迫る

ダッカ市内で、2つの地域の公務員住宅近くに少女たちの支援センターを新規開設しました。この地域で家事使用人として働く少女を見つけるために地域住民への戸別訪問を900回以上行い、センターに通わせてもらえるよう、地道な説得を続けました。また、隣接するスラムの自宅から働きに通っている少女たちの保護者に働きかけを行うため、スラムへの訪問も270回以上実施。その結果、計40名の少女が支援センターに通うようになり、読み書き

の授業を受けたり、歌や踊りなどを楽しんでいます。また、多くの少女たちの出身地域である農村部の調査を実施しました。少女を都市部へ働きに出す主な要因は「家庭の経済的問題」と「少女、女性の権利を軽んじる慣習」等によるものです。2025年度からは問題の根本原因を断ち切るべく、農村部での保護者、学校、行政関係者への意識啓発等の活動を行っていきます。

現地からの声

バイクパラ支援センター / クトゥルさん(仮名) / 12歳

私は、家族とともに田舎からダッカへ3か月前に移住してきました。家族はダッカに住んでいますが、私は雇用主の家に住み込みで働いています。主な仕事は掃除や洗濯で、床掃除が特に大変です。朝から晩まで働いているので、ダッカへ出てきた

時から学校へは行けていません。お母さんは私に会いに来てくれませんが、このセンターで私と同じように働いている子や先生とお話をしたり、歌や踊りができるのがとても嬉しいです。



▲ 村の女性たちの声をすくい上げる聞き取り調査



▼ 雨水を貯めるタンクを18箇所で設置



PICK UP 2 サイクロンが多い地域での防災支援 ️ クルナ県コイラ郡

女性にやさしい防災が変える人々の意識

バングラデシュ農村部には男性が家庭の中心かつ社会をリードする存在であり、女性はその中に介入しないという文化・伝統的な価値観が根深くあります。このような考え方が防災にも影響した結果、女性が逃げ遅れやすい状況が固定化していることが、これまでの防災活動の経験から見えてきました。そこで、ジェンダー視点を取り入れた、防災力強化のための啓発とインフラ整備を進めています。50回以上実施した地域住民との防災会議では、「洪水時に女性が遠くまで水汲みに行く役割を担うことが多い」「トイレが使えず我慢して体調を崩す」といった課題を共有したり、サイクロンシェルターへの避難時に女性や高齢者等を取り残さないための意識啓発を行いました。その結果、日常の中で女性の役割とされている井戸の水汲みを男性が行う家庭が出てくるなど、日頃の性別による役割の偏りにも変化が見え始めています。

現地からの声

活動地住民 / ロヒマ・カトゥーンさん / 65歳



サイクロンが来ると洪水が起きます。特に大変なのは水が引くの待つ間の生活です。食べ物や水が足りない状況が続くのです。最寄りの井戸は5kmも先にある上に、長時間並び水汲みを待たないといけません。シャプラニールが雨水を貯められるタンクの設置をしてくれたことで、被災時にきれいな水が飲めるだけではなく、乾季にしょっぱい井戸水*ではなく美味しく安全な水を飲めるようになりました。

*事業地は、沿岸地域であることなどから地下水の塩分濃度が高い傾向にある。

事務所長のメッセージ

バングラデシュ事務所長
内山 智子



2024年は、学生を中心とした市民による運動が全国に広がり、長く続いた政権が退陣するという、歴史的に大きな転換期となりました。このような状況下ではありましたが、シャプラニールは防災と児童労働撲滅に向けた事業を継続することができました。防災事業では、サイクロン来襲時により厳しい状況に置かれる女性に配慮したインフラ整備と地域の防災組織の防災力強化を進めました。

児童労働削減事業においては、働く子どもへの直接支援と並行し、2024年3月に21のNGOから成るプラットフォームを立ち上げ、連携してアドボカシー活動を行いました。その結果、政府の各省庁と具体的な話し合いができるようになっていきます。シャプラニールは、頻発する災害に対して住民自らの災害対応能力を高めること、そして児童労働撲滅を実現するために、引き続き活動を行っていきます。

NEPAL

ネパールの活動の

注目トピック



▲ 学校児童保護方針を各学校で策定



▲ 学校へ向かうマナハリ村の子どもたち

PICK UP ① 児童労働の予防と削減 📍 マクワンプル郡 ヘタウダ市、マナハリ村

子どもたちが安心して学校生活を送るための方針を策定

支援対象の21校で、校長・保護者・地域住民が参加する学校運営委員会、PTA、教員、生徒らが協力してそれぞれの学校の特色に合った「学校児童保護方針」を策定しました。この方針には、子どもにやさしい環境を学校や地域でつくり出すため、各関係者が取るべき行動について明記されています。これまで児童を守るべき立場であるおとなたちの意識の低さが問題視されていましたが、この方針が策定されたことで、教員や地域住民の間で、

今まで見過ごされてきた学校を中途退学をする子どもへの関心が高まり、児童労働の予防と削減の取り組みに繋がることが期待されています。方針の策定で終わらず、今後、方針が浸透し一人ひとりが具体的な行動につなげていけるよう、定期的な働きかけを行っていきます。

📧 現地からの声

マナハリ村 中学生・子どもクラブメンバー / ディベスさん / 14歳

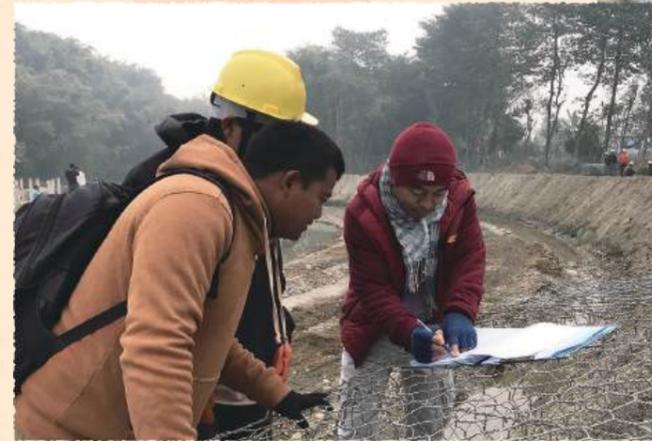


私は子どもクラブ*に入ってから8年になります。クラブに入ってから一番の変化は、父がお酒を飲んだ後に暴力を振るわなくなったことです。父はお酒を飲むと母に手をあげることがありました。そんな父に、クラブのみんなと学んだ子どもの権利や

児童保護について伝え続けていたら、暴力が減っていったんです。クラブに入って本当によかったと思っています。

※シャブラニールが研修の提供等を支援する各地域で社会活動を行う子どものグループ

▼ 2024年9月に大雨が発生したが設置したインフラによって洪水から集落を守ることができた



▼ 「水路のおかげで稲がしっかり根付いた」と話してくれた農家の組合長さん



PICK UP ② 水害リスクに強いコミュニティづくり 📍 モラン郡 ウルラバリ市

「水」という資源とうまく付き合っていける地域をつくる

ウルラバリ市の2、3区に流れる2本の川の洪水対策インフラの設置を進めました。2024年度は地域住民の意見や専門家のアドバイスのもと川の両岸2.7kmに及ぶ範囲で土堤をつくったり、地域住民が自分たちの力で修繕できる蛇籠(じゃかご)を利用した護岸工事や遊水池の設置などを実施しました。

また、住民にとって川は脅威であるだけでなく、生活に欠かせない資源でもあります。新たな取り組みとして、川の水を農業用水として活用し生計向上に活かすため、水路の修繕も行いました。今後は、地方自治体・集落ごとに結成した災害管理委員会が、これらのインフラの維持管理を行っていきます。

📧 現地からの声

ウルラバリ市市長 / カンガ・カレル氏



シャブラニールとパートナー団体「RRN」には感謝しています。このプロジェクトの活動は、川のインフラ整備に留まりません。学校での防災教育の実施、地域住民が災害に備えるための啓発活動、地元の警察などの行政組織を巻き込んだ地域での防災訓練など多岐にわたっています。このプロジェクトによって、私たちのコミュニティは洪水から守られることになるでしょう。

事務所長のメッセージ

ネパール事務所長 横田 好美



2024年9月にはネパール各地で大雨が降り、首都カトマンズを含め多くの地域で洪水や土砂災害が起きました。ネパールの災害対策はまだまだ発災後の対応が中心で、事前の備えが不足しているのが現状です。今回の大雨でも、年々頻発化・激甚化する災害に対してこれまで以上に備えが必要であることが浮き彫りになりました。モラン郡の事業地ではこの雨で川が増水したものの氾濫せずに済み、設置した堤防など

のインフラが効果を発揮したと言えます。また、活動を通じてコミュニティの人たちが防災に関する知識を得るだけでなく、一人ひとりの意識にも変化が起こり非常持ち出し袋を自ら準備したり、緊急時の連絡先を自宅に貼ったりするといった行動も見られるようになってきています。事業の最終年度となる2025年度も災害への備えがより強化され、コミュニティに根付くよう、引き続き事業を進めていきます。

JAPAN

▼ 日本語とネパール語を交えた絵本の読み聞かせ

日本の活動の 注目トピック



▲ 子どもたちも料理に挑戦

PICK UP ① 多文化共生社会づくり 東京都新宿区

ルーツの違いを越えて さまざまな親子が集まれる居場所づくり

2023年度から運営を続ける多文化共生コミュニティスペース「マザリナ」に加え、2024年度11月から「一般社団法人青草の原」が西新宿で運営するコミュニティスペース「れもんハウス」と協働し、こどもまんなかサロン「マザリナれもん」がスタートしました。ここでは外国ルーツの親子がよりアクセスしやすい居場所づくりを行います。2024年度は5回開催し、外国ルーツの人を含む37名が

参加。ネパールの伝統料理体験や、多言語での絵本読み聞かせなどを通じ、異文化を理解しながら、外国ルーツの人と日本人と一緒に世間話から子育ての話もできる温かな空間となっています。今後もそれぞれが抱える悩みや孤立を解消に繋げるとともに、外国ルーツの人もコミュニティの中で主役になり、人と人をつなげる役割を担えるような取り組みに挑戦していきます。

コミュニティスペース利用者の声

ネパール出身 在日歴5年目 / コズ・ソバさん

日本に住み始めた頃は日本語がほとんど話せず、知っている人が周りにいない中、とても寂しい思いで過ごしていました。今は娘と一緒に「マザリナ」に参加していますが、私の日本語が間違っている、ここには理解しようとしてくれる人がたくさんいます。子育てで困ったことなども相談でき、日本人だけでなく他の国の出身の方々と出会える場になっています。



多文化共生コミュニティスペース「マザリナ」

さまざまなルーツをもった人びとが集まる東京都新宿区大久保にて、気軽に生活相談ができ、外国ルーツの人と地域住民とが交流できる場として、多文化共生コミュニティスペース「マザリナ」を運営しています。開催日程はウェブサイトをご覧ください。

▼ ウェブサイト



マザリナ

検索

FAIRTRADE

▼ 伝統刺しゅうノクシカタをつくる女性たち

フェアトレード活動の 注目トピック

PICK UP

📍 バングラデシュ・ネパール・日本

生産者もファンも 嬉しい商品づくりをめざして

2023年度末にSNSで大きな反響があったフェルトマスコット・イエティの人気の継続したことで、クラフトリンク全体での新規購入者数が2023年度比63%増の599人と大幅に増えました。イエティを通じてシャプラニールを知ってくださった方から、お手紙をいただいたり、ご寄付やイベント参加など別の形で応援くださったりと活動の輪が広がってきています。

また、人気商品だったバングラデシュの文化・生活を感じられる伝統刺しゅう「ノクシカタ」商品の再販をめざし、新しいパートナー生産団体「Palli Crafts (ポリ・クラフト)」と取引を開始しました。原料変更のため販売が中断しているオリジナル石けん「Sheソープ」は、専門分野において生産団体とのやりとりが難航し再販は2025年度に持ち越しましたが、より安心して使える商品として多くの方に手に取っていただけるよう準備を進めています。



▲ イエティ関連の商品も増えました

生産者の声

ネパール パートナー生産団体ACP / コルボナ・フィアルさん

20年ほど前に ACPで働く友人から聞いてこの仕事を始めました。イエティをつくるのはとても楽しいです。もう長年作っているのが難しく感じる工程はないですが、新しい黒いイエティは毛をとかすのに少し苦労します。日本のお客様にイエティが大人気ということで、もっと注文がきたら嬉しいです！

大人気商品
イエティ



Craftlink
クラフトリンク

シャプラニールのフェアトレード活動「クラフトリンク」では、バングラデシュ・ネパールでつくられた手工芸品やコーヒーなどを販売しています。ぜひオンラインショップへお越しください！



◀ オンラインショップ

クラフトリンク

検索

国際協力の輪

私たちが行う活動は、皆さまからのご寄付やボランティア活動によって支えられています。2024年度もたくさんの皆さまから温かいご支援をいただき、本当にありがとうございます。

2024年9月には政変、大洪水が発生したバングラデシュでの支援活動のためのクラウドファンディングを実施。現地との中継企画等、さまざまな形で情報を発信し、のべ534名もの方々から約590万円のご寄付をいただきました。不要品寄付の取

り組み「ステナイ生活」では、例年児童労働問題の啓発と合わせ全国で呼びかけているはがきの寄付キャンペーンへのご寄付が前年度を上回り、不要品寄付全体を合わせると年間で3,140万円のご寄付になりました。また、東京マラソンチャリティの制度を利用し54名の方々がシャプラニールを寄付先を選びチャリティランナーとして出走するなど、新たな繋がりも着実に広がっています。



会員数
(2025年3月時点の総数)

1,119名

マンスリーサポーター数
(2025年3月時点の総数)

1,309名

講演会・イベント・販売会実施回数

48回

講演会	25回
イベント・セミナー	10回
クラフトリンク出展	13回

不要品寄付数
(はがき、切手、古本等)

14,476件

ボランティア参加者数

のべ
1,256名
(新規123名)

クラフトリンクの商品購入数

2,988件

メディア掲載実績

131件

新聞をはじめ、テレビのニュース番組やラジオ放送など、130以上のメディアに取り上げていただいたほか、SNSを通じた情報拡散にも多くのご協力をいただきました。

ココに注目!

バングラデシュの若者世代が活躍

東京事務所では初となるバングラデシュ出身の大学生、ファビア・ファテマさんがインターンに参加しました。ファビアさんが企画・実施したベンガルカレーづくりのイベントでは、バングラデシュの基本情報だけでなく、若者に人気の歌やお菓子の紹介などもあり、新しい視点が盛り込まれた文化交流の場となりました。

また、9月にはバングラデシュのダッカ大学の学生と中継を結び、政変に際して若者世代が感じたことを聞くオンラインイベントを実施。南アジアの若者の声を届ける企画を今後も続けていきたいと思ひます。

▼ベンガルカレーづくりのイベントの様子
(中央左:インターン ファビアさん)



シャプラニールを支える人々の声



マンスリーサポーター
岩原 あゆみ さま
会社員

不要な本やCDを有効活用できないかと調べていたとき、シャプラニールの「ステナイ生活」の取り組みに出会い、寄付をきっかけにマンスリーサポーターになりました。「働く」とは、単にお金を稼ぐ手段ではなく、自己実現や社会とのつながり、多様な職を選ぶ自由といった多くの価値があると感じています。しかし、教育を受けられず幼少期から家事使用人として働く子どもたちがいる—そんな厳しい現実には、小さな行動でも変化をもたらしたいと思ひ、今後も活動を続けていきたいと思ひます。定期的に現地から写真付きのお手紙が届くのも、いつも楽しみにしています!



マンスリーサポーター
中根 悠貴 さま
団体職員

ひとり親家庭で育ったため、奨学金に支えられて高校・大学と学んできました。たくさんの人の優しさに助けられたからこそ、社会に出た今、少しでも恩返しができたらと思ひ、支援を始めました。そんな中で児童労働や教育機会の不平等といった問題に実践的に取り組まれているシャプラニールの活動を知り、マンスリーサポーターになりました。「遠い国の誰か」だった存在が、今では日々の暮らしの中で思いを馳せることができる「つながり」になっていることを何よりも嬉しく思ひています。末永く、心を込めて応援していきたいと思ひます。

ご支援いただいた企業・団体

めぐり-ココ-ポ
(ひょうご、ひろしま、かごしま、みやざき、さか)

コープ自然派
(おおさか、兵庫、奈良、京都)

pal*system
バルシステム埼玉

pal*system
バルシステム東京

BIPROGY

MINATO MANAGEMENT

ICT情報労連
情報産業労働組合連合会

COOP 青森県民生協

全国友の会
感謝しつづ 生活しつづ 祈りつづ

ご寄付

社会福祉法人岡山県社会福祉協議会 / かみひとねっとわーく京都事務局 / 川和保育園父母の会・ボランティア委員会 / 自然派くらぶ生活協同組合 / 小さな一歩の会 / 株式会社パソナグループ / 富士フィルムビジネスイノベーション株式会社 / NPO法人ホールアース自然学校 / 株式会社三井住友銀行 / 株式会社ロイヤリティマーケティング 他

助成金・補助金

公益信託アドラ国際援助基金 / 外務省 / 公益財団法人関西・大阪21世紀協会 / 認定NPO法人ジャパン・プラットフォーム / 住友商事株式会社 / 宗教法人日蓮宗 / 日本労働組合総連合会 / 独立行政法人福祉医療機構 / UAゼンセン(全国繊維化学食品流通サービス一般労働組合同盟) / 公益財団法人りそなアジア・オセアニア財団

※順不同

会計報告

詳細な会計報告は、
WEBサイトをご覧ください。



活動計算書

2024年4月1日から2025年3月31日まで (単位: 千円)

項目	金額
受取会費	
正会員	8,360
賛助会費	3,396
受取会費計	11,756
受取寄付金	
一般寄付	19,942
マンスリーサポート	27,409
物品寄付	31,427
基金・指定寄付	25,714
受取寄付金計	104,493
受取助成金	
外務省補助金	179,419
民間助成金等	63,243
受取助成金計	242,662
事業収益	
クラフトリンク事業売上等	18,007
その他収益	
雑収入	6,043
経常収益計	382,960
事業費	
海外事業	
バングラデシュ事業	61,802
ネパール事業	153,547
多文化共生事業	10,099
開発教育事業	795
クラフトリンク事業	21,021
緊急救援事業	49,884
知的貢献事業	955
事業費計	298,102
管理費	
ファンドレイジング部門	40,322
総務部門	11,386
広報部門	15,983
管理費計	67,691
経常費用計	365,793
当期正味財産増減額	17,167
前期繰越正味財産額	84,216
次期繰越正味財産額	101,383

監査報告書

特定非営利活動法人
シャプラニール=市民による海外協力の会
代表理事 坂口 和隆 殿

特定非営利活動法人シャプラニール=市民による海外協力の会定款第14条第4項の規定に基づき、2024年度における理事の業務執行の状況及び財産状況について監査した結果、適正かつ正確であることを認めます。

2025年5月16日
特定非営利活動法人
シャプラニール=市民による海外協力の会 監事

岩城幸男

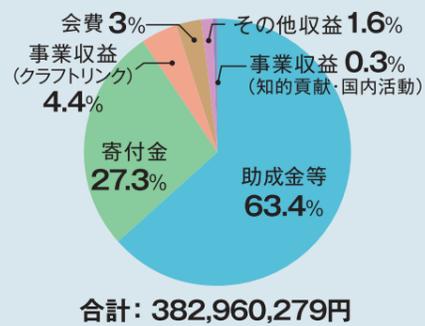
穂積智夫

貸借対照表

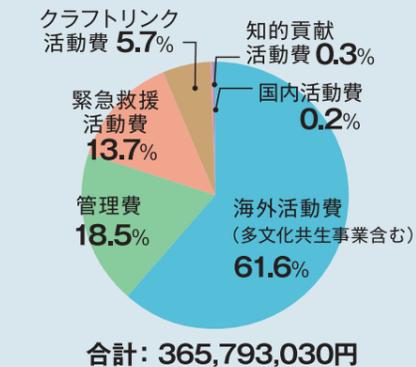
2025年3月31日現在 (単位: 千円)

項目	金額
流動資産	
現金預金	150,853
有価証券	5,481
商品	3,530
前払金	5,531
その他流動資産	1,597
流動資産計	166,993
固定資産	
有形固定資産	901
無形固定資産	33
投資その他資産	28,061
固定資産計	28,995
資産合計	195,988
流動負債	
未払金	12,478
未払費用	3,690
前受金	59,427
未払消費税等	1,550
賞与引当金	2,472
その他流動負債	510
流動負債計	80,127
固定負債	
退職給付引当金	11,878
ファンド預託金	2,600
固定負債計	14,478
負債合計	94,605
前期繰越正味財産	84,216
当期正味財産増減額	17,167
正味財産合計	101,383
負債及び正味財産合計	195,988

収益



費用



共に活動を進める

パートナー団体一覧

ASD (Action for Social Development)

1988年設立のバングラデシュのNGO。子どもの権利、健康、防災等幅広い分野で活動。
共に取り組んでいる事業: 家事使用人として働く少女の支援

JJS (Jagrata Juba Shangha)

1986年設立のバングラデシュのNGO。南西部クルナ県を中心に貧困層への支援を行う。
共に取り組んでいる事業: サイクロンが多い地域での防災支援 サイクロン「レマル」緊急救援

RRN (Rural Reconstruction)

1993年設立のネパールのNGO。脆弱な立場にいる人々のエンパワメントをめざした支援を展開。
共に取り組んでいる事業: 水害リスクに強いコミュニティづくり

CWIN (Child Workers in Nepal Concerned Center)

1987年設立のネパールのNGO。子どもの権利促進のためにさまざまな活動を行う。
共に取り組んでいる事業: 児童労働の予防と削減

魅力的な商品を手がける

パートナー生産団体一覧

バングラデシュ

CORR-The Jute Works
ジュート製品、素焼製品

PROKRITEE
リユースサリー雑貨、石けん等

UBINIG/Prabartana
ガムチャ、草木染めの製品

Palli Crafts
ノクシカタ刺しゅうの製品

ネパール

ACP (Association for Craft Producers)
フェルト、ダッカ織製品

SANA HASTAKALA
お香、ヤクウールの製品

WSDO (Women's Skills Development Organization)
手織布バッグ・雑貨

日本

株式会社 SHANTI SHANTI COFFEE FARM
珈琲、チャイマサラ、ハーブティ、ハチミツ 等

社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会 新宿区立高田馬場福祉作業所
カレースライスセット(包装)

認定特定非営利活動法人ポバイ
クッキー

特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン
ジュートバッグ (イラスト)

職員紹介

※2025年7月時点

東京事務所



事務局長
藤岡 恵美子



総務部 部長
杉山 和明



事業推進部 部長
勝井 裕美



事業推進部
バングラデシュ事業担当
柳下 優美



事業推進部
ネパール事業担当
日比 愛子



事業推進部
多文化共生事業担当
東 香澄



事業推進部
アルバイト
ジェームス 稚奈



事業推進部
アルバイト
小林 百合



支援者コミュニケーション部 部長
高階 悠輔



支援者コミュニケーション部 支援者窓口担当
菅野 冴花



支援者コミュニケーション部 ファンドレイジング担当
ダハル・スティブ



支援者コミュニケーション部 アルバイト
佐々木 美月



広報部 部長
長瀬 桃子



広報部 ウェブ担当
下鳥 舞佳



クラフトリンク部 部長
小川 晶子



クラフトリンク部 アルバイト
田尻 瑞穂

バングラデシュ事務所



バングラデシュ事務所 所長
内山 智子



ユニットコーディネーター
モハマド・アニスザマン



ユニットコーディネーター
マフザ・バルビン



会計
ルフル・アミン・ハウラダル



会計
サムスン・ナハール



総務
モハマド・ハフィズ・ラーマン



オフィスアシスタント
ジョイ・オビ・ゴメス



オフィスアシスタント
ファティマ・ベグン



ドライバー
シボン・ハズラ

ネパール事務所



ネパール事務所 所長
横田 好美



プログラムオフィサー
スリジャナ・シュレスタ



プログラムオフィサー
キル・バハドゥール・ガレ



総務・会計
マンジート・シュレスタ



総務・会計アシスタント
スリジャナ・ボガティ



オフィスアシスタント
スニタ・マハルジャン



SHAPLANEER

認定NPO法人

シャプラニール=市民による海外協力の会について

1972年、独立戦争直後のバングラデシュでの農業支援から始動し、50年以上活動を続ける国際協力NGOです。現在は児童労働削減、防災活動、フェアトレード活動、多文化共生をめざした取り組み、緊急救援・復興支援等を行っています。「シャプラニール」はベンガル語で睡蓮の家を意味します。

私たちがめざすもの

すべての人々が持つ豊かな可能性が開花する
貧困のない社会の実現

活動国

バングラデシュ、ネパール、日本

シャプラニールとともに国際協力に参加

詳しくはこちら ≫



ご寄付

シャプラニールへのご寄付は税の優遇措置(寄附金控除)の対象となります。

マンスリーサポーター

毎月1,000円~のご寄付で活動をご支援いただけます。会報・年次報告書を通じ、活動の最新情報をお届けします。

今回寄付

活動国や事業を指定したご寄付など、ご自身の関心に合わせたさまざまな寄付方法があります。

遺贈寄付

大事な資産、相続財産の一部を、貧困のない社会をつくる活動に役立て、明るい未来へ繋げることができます。

不要なモノが寄付に変わる ステナイ生活



不要になった本やCD、書き損じはがき、切手などを寄付として集めています。

お買い物で活動を支援 クラフトリンク



生産者の生活向上につながるフェアトレード商品を販売しています。委託販売やオリジナルバッグ制作も受付中。

事務所で、イベントで ボランティア



事務所ボランティアには、地域の方だけでなくさまざまな企業・学校からご参加いただいています。

認定NPO法人

シャプラニール=市民による海外協力の会

〒169-8611 東京都新宿区西早稲田2-3-1 早稲田奉仕園内

TEL: 03-3202-7863 E-MAIL: info@shaplaneer.org

シャプラニール

検索

<https://www.shaplaneer.org/>



▼ウェブサイト

